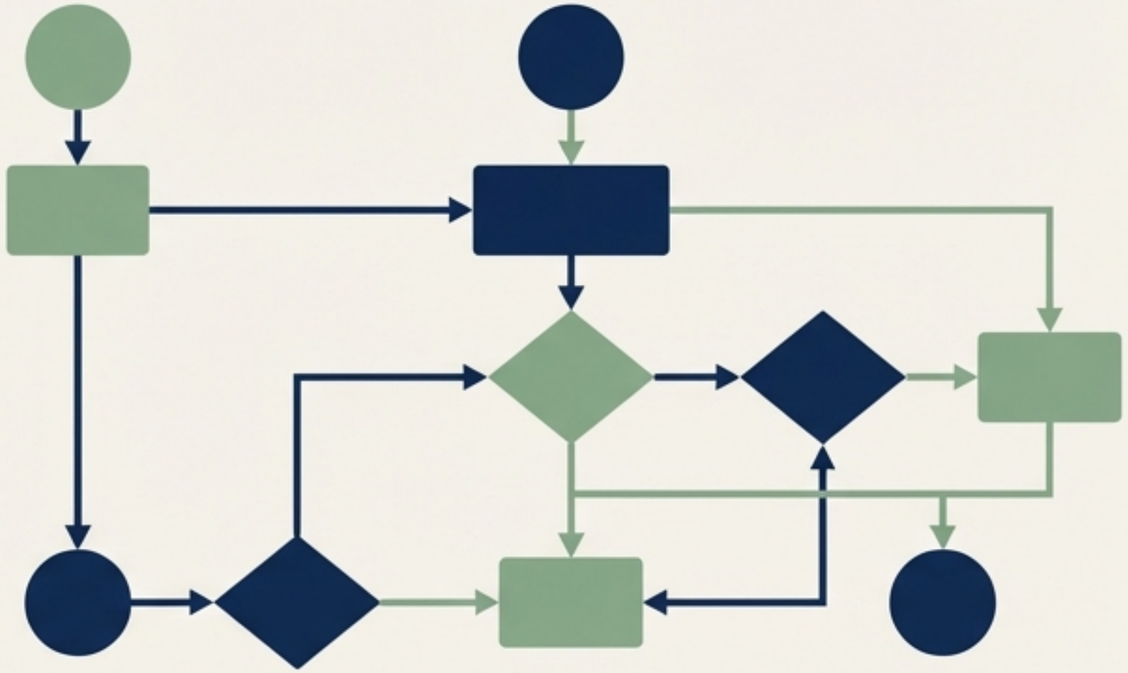




感染症対策BCP：文書から「判断の型」への変革

就労継続支援B型事業所のための実践ガイド

対象者：管理者 / サービス管理責任者 / BCP担当

NotebookLM

BCPの真の価値は、緊急時に迷わないことにある



【NG】監査のための「書類」

- いざという時に読まれない
- 実運用と乖離している



【OK】現場で動ける「判断の型」

- 発生前に基準が明文化されている
- 初動と連絡が固定化されている
- 復旧まで定義されている

感染症対応は、発生時の現場の判断力ではなく、平時の準備で結果が決まります。

NotebookLM

現場の混乱を引き起こす3つのクリティカルな場面



場面1：発熱者発生直後

誰が最終判断を下すのか、指揮命令系統が決まっていない。



場面2：同時欠勤発生時

職員の代替配置ができず、瞬時に運営停止の危機に直面する。



場面3：再開判断時

医療・保健所の情報と、現場の安全判断が連動せず再開時期を見誤る。



B型事業所のジレンマ

利用者さんの通所手段や健康状態が多様なため、「一律停止」か「通常運営」の極端な二択では対応しきれません。

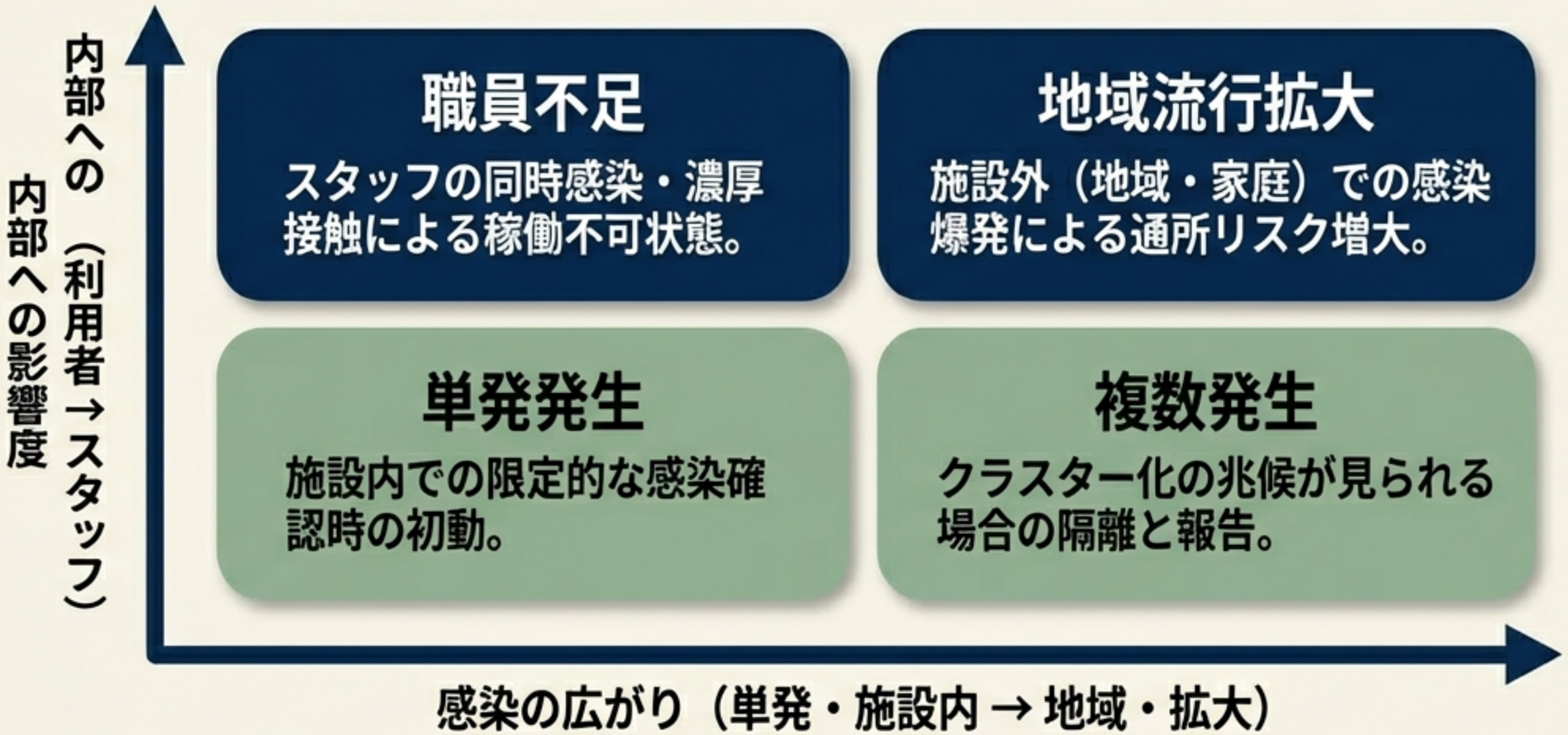
NotebookLM

現場で機能するBCPを実装する5つのステップ



NotebookLM

Step 1：発生パターンに応じた「影響シナリオ」の解像度を上げる



「何が起きたか」により、引くべきトリガーは異なります。

NotebookLM

Step 2: 属人化を防ぐ、4つの役割分担の固定化



本部判断者

最終的な運営継続・停止の意思決定を行う。



現場責任者

現場の安全確保、隔離対応、スタッフへの直接指示。



連絡担当

対象者への優先順位付けと、迅速な情報伝達。



記録担当

発生状況、時系列の対応、保健所とのやり取りの正確な記録。

NotebookLM

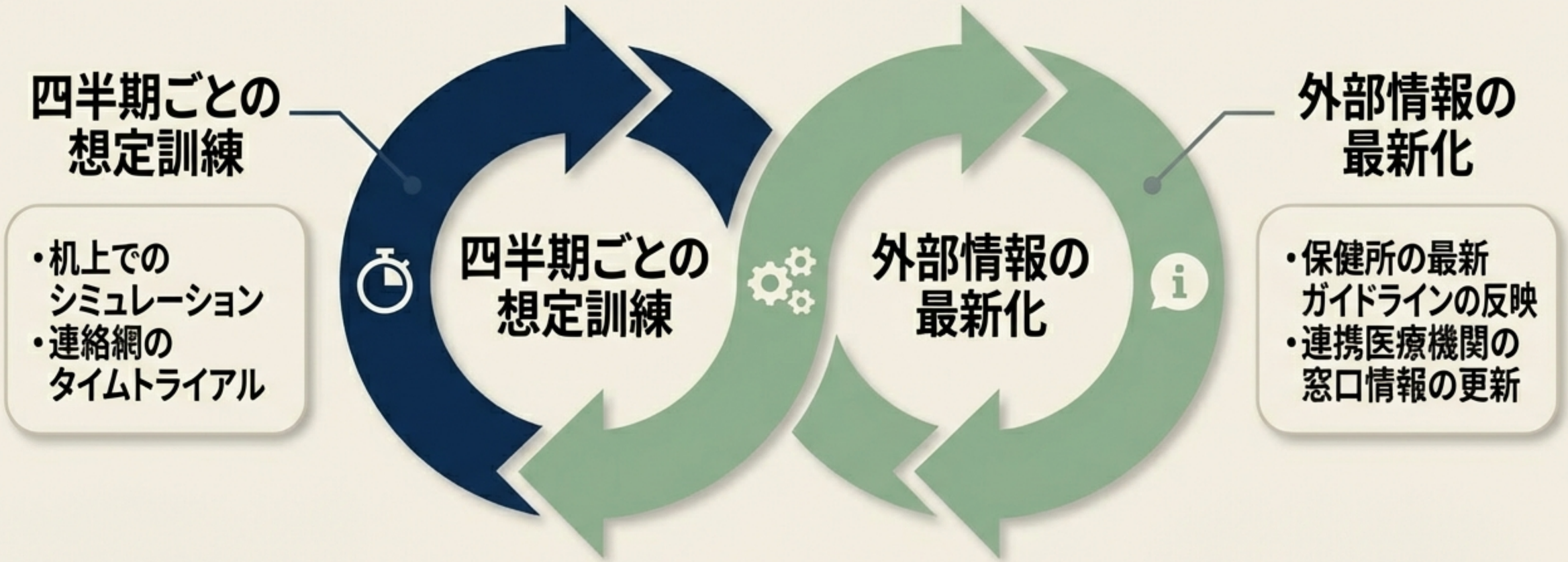
Step 3: サービス継続のトリアージと優先順位の決定



事前に優先順位を決めることで、限られたリソースを最適配分します。

NotebookLM

Step 4: 文書を実動に変える「初動訓練と情報更新」のサイクル

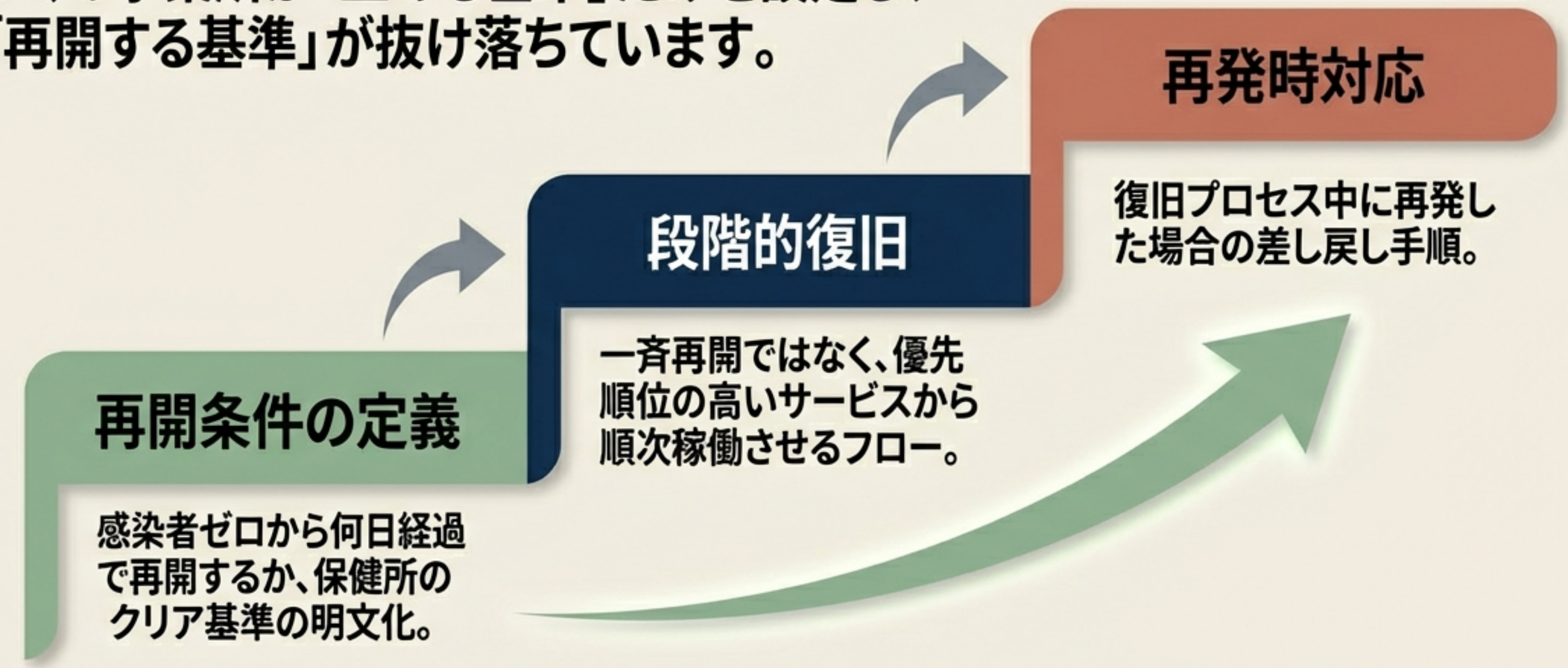


定期的なサイクルが、いざという時の反射神経を鍛えます。

NotebookLM

Step 5: 再開時の混乱を防ぐ「復旧基準」の設定

多くの事業所が「止める基準」だけを設定し、
「再開する基準」が抜け落ちています。



NotebookLM

ケーススタディ：AB事業所のBCP変革

導入前の課題	実施内容 (Step 1〜5の実装)	導入後の変化
発生時に誰に連絡すべきか、誰が判断するかが遅れ、現場が極度に混乱。	シナリオ別判断フローの作作成、連絡体制の優先順位化、四半期訓練の固定化。	初動判断時間が大幅に短縮。連絡漏れが減少し、関係者の不安を払拭。



成功要因
(Key Takeaway)

発生直後の対応だけでなく、「復旧までの道のり」を事前に定義したことで、現場がゴールを見失わずに動けたこと。

NotebookLM

BCPを形骸化させる3つの「落とし穴」と回避策

落とし穴1: 発生時対応だけを書く
結果: 運営再開時に大混乱。

回避策: 再開・復旧基準を必ずセットで定義する。

落とし穴2: 連絡網を放置する
結果: 初動の致命的な遅れ。

回避策: 月次の連絡網更新をルーティン業務として固定化する。

落とし穴3: 訓練を省略する
結果: 文書が単なる紙切れになる。

回避策: 短時間（15分）でもよいので、実動・机上訓練を継続する。

NotebookLM

運用の健康状態を測る3つのKPI（評価指標）

【指標1】初動判断時間



- 定義: 発生から初動決定までの時間
- 目標値: 前回比短縮
- 計測頻度: 発生時・訓練時

【指標2】連絡完了率



- 定義: 規定対象への連絡完了割合
- 目標値: 100%
- 計測頻度: 発生時・訓練時

【指標3】訓練実施率



- 定義: 計画訓練の実施割合
- 目標値: 100%
- 計測頻度: 四半期ごと

NotebookLM

明日から使える：BCP監査・品質セルフチェック

- [ ] BCPの最終改定日が明確に管理されているか？
- [ ] 4つの役割分担（判断・現場・連絡・記録）が明文化されているか？
- [ ] 連絡網は最新化され、優先順位がつけられているか？
- [ ] 四半期ごとの訓練履歴が適切に残っているか？
- [ ] 段階的な復旧基準（再開条件）が定義されているか？

障害者総合支援法 / 指定障害福祉サービス運営基準 / 感染症対策・BCP関連通知 準拠

NotebookLM

感染症BCPは、事業所を守る「運営継続の安全装置」

判断基準、役割、連絡、復旧を一体で設計し、
訓練で機能確認を続けることで、書類は生きた「型」に変わります。

Next Action

まずは明日、自事業所の「連絡網の最新化」と「役割分担の確認」から第一歩を踏み出しましょう。

NotebookLM